

市民WEBアンケート結果の報告

令和3年3月26日
神戸市都市局公共交通課

WEBアンケートの概要

■調査目的

例年、交通手段別分担率を経年的に把握するために、特定日の移動実態について調査している。今年度は、新型コロナウイルス感染症による人の移動実態の変化や個別施策の評価に関する項目を追加して実施。

■調査期間

令和2年10月22日(木)～11月4日(水)

■調査対象

特定日（令和2年10月21日(水)）に外出した、15歳以上の神戸市民

■サンプル回収数

1,185件

神戸市人口（住民基本台帳R2.7.31時点）

	男性	女性	合計
15～19歳	35,270	33,754	69,024
20～29歳	75,309	78,342	153,651
30～39歳	82,803	85,953	168,756
40～49歳	109,353	116,104	225,457
50～59歳	100,224	106,043	206,267
60歳以上	226,960	294,480	521,440
合計	629,919	714,676	1,344,595

目標サンプル数

	男性	女性	合計
15～19歳	26	25	51
20～29歳	56	58	114
30～39歳	62	64	126
40～49歳	81	86	167
50～59歳	75	79	154
60歳以上	169	219	388
合計	469	531	1,000

回収サンプル数

	男性	女性	合計
15～19歳	20	29	49
20～29歳	67	70	137
30～39歳	74	76	150
40～49歳	96	105	201
50～59歳	87	94	181
60歳以上	208	259	467
合計	552	633	1,185

差

	男性	女性	合計
15～19歳	-6	4	-2
20～29歳	11	12	23
30～39歳	12	12	24
40～49歳	15	19	34
50～59歳	12	15	27
60歳以上	39	40	79
合計	83	102	185

報告内容（調査結果より抜粋）

1. 市内の新型コロナウイルス感染状況
 - (1) 1年間の感染状況
 - (2) アンケート調査時点における感染状況
2. 単純集計結果（R1とR2の2ヵ年比較）
 - (1) 1日のトリップ数
 - (2) 外出目的
 - (3) 代表交通手段
3. コロナ禍での行動変容に関する設問
 - (1) 外出頻度の変化
 - (2) 交通手段の変化
 - (3) アフターコロナの公共交通機関利用
4. 市内の公共交通機関に対する満足度
 - (1) 単純集計
 - (2) 居住地とのクロス集計
 - (3) 年齢とのクロス集計
5. KOBEバスマップに関する設問
 - (1) 認知度
 - (2) 利便性
 - (3) 令和2年度版マップの所持
6. 市営地下鉄北神線に関する設問
 - (1) 現在の利用状況
 - (2) 市営化による運賃値下げの認知度
 - (3) 運賃値下げによる利用状況の変化

1. 市内の新型コロナウイルス感染状況

(1) 1年間の感染状況

兵庫県の緊急事態宣言の期間

1回目：令和2年4月7日～5月21日

2回目：令和3年1月7日～2月28日



2020年2月18日～2021年3月1日までの神戸市内の新型コロナウイルス新規感染者数の推移（週単位）※神戸市HPより

1. 市内の新型コロナウイルス感染状況

(2) アンケート調査時点における感染状況

アンケート調査期間（令和2年10月22日～11月4日）における一週間当たりの新型コロナウイルス感染症の市内新規感染者数は、平均約9人/日程度であった。



2020年10月6日～2021年3月1日までの神戸市内の新型コロナウイルス新規感染者数の推移（週単位）※神戸市HPより

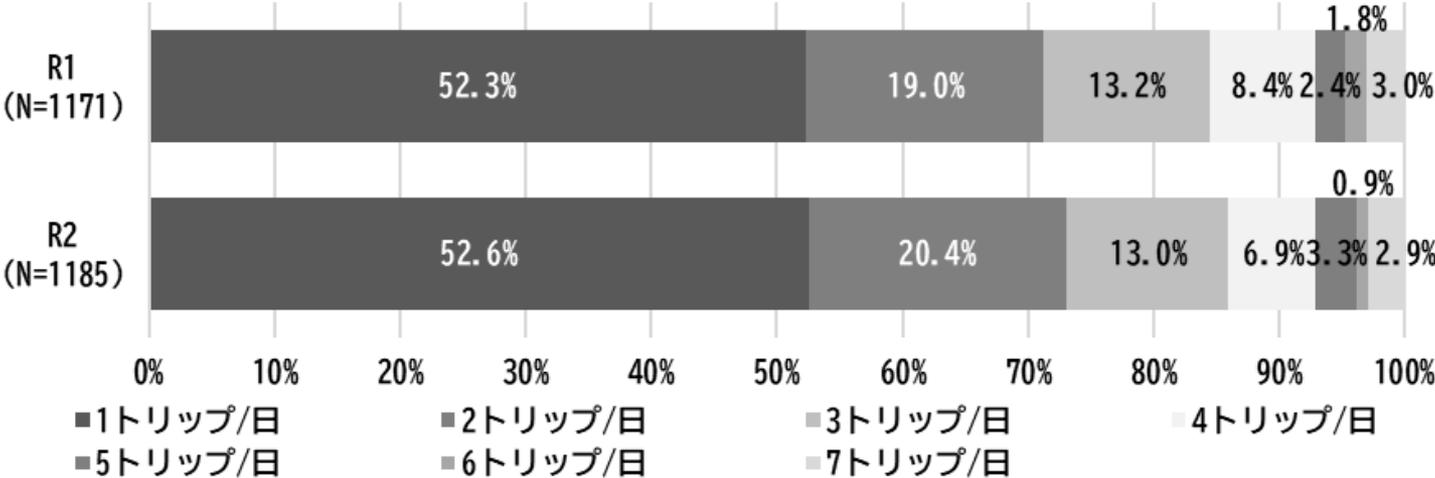
2. 単純集計結果（R1とR2の2ヵ年比較）

（1）1日のトリップ数

特定日のトリップ数について、R1調査とR2調査を比較すると、ほぼ同程度の推移であった。

1人あたりのトリップ数の平均値で比較すると、H22PT調査2.22トリップ/日、R1調査では2.07トリップ/日となっており、R2調査では2.02トリップ/日と少なくなっている。

Q3～Q9_トリップ数

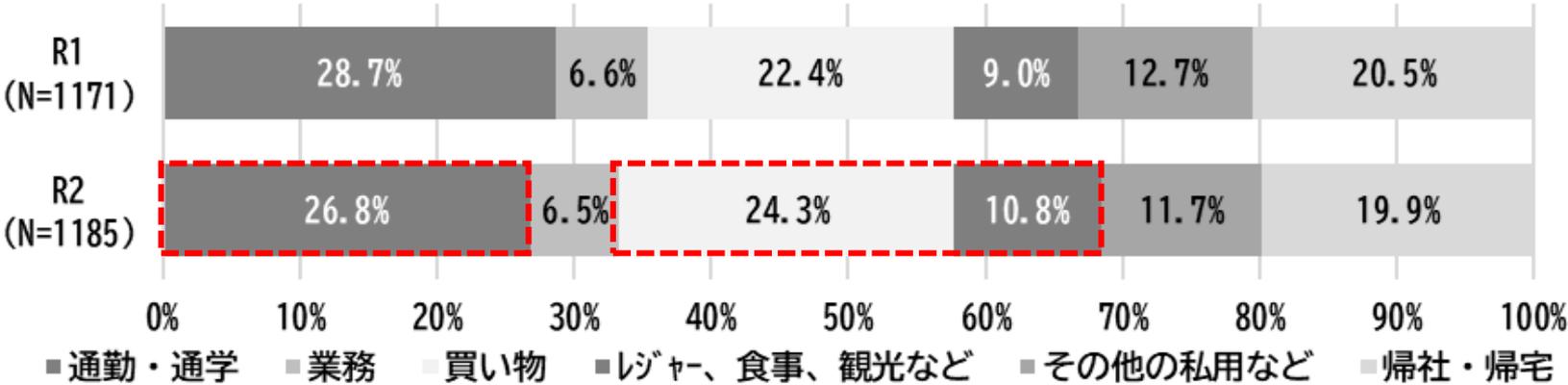


2. 単純集計結果（R1とR2の2ヵ年比較）

（2）外出目的

特定日の外出目的について、R1調査とR2調査を比較すると、R2調査は「買い物」（+2.0ポイント）、「レジャー・娯楽、食事・パーティ、観光、イベント、散策など」（+1.7ポイント）の割合が大きくなっており、逆に、「通勤・通学」（-1.8ポイント）の割合が小さくなっている。

Q3-3～Q9-3_目的

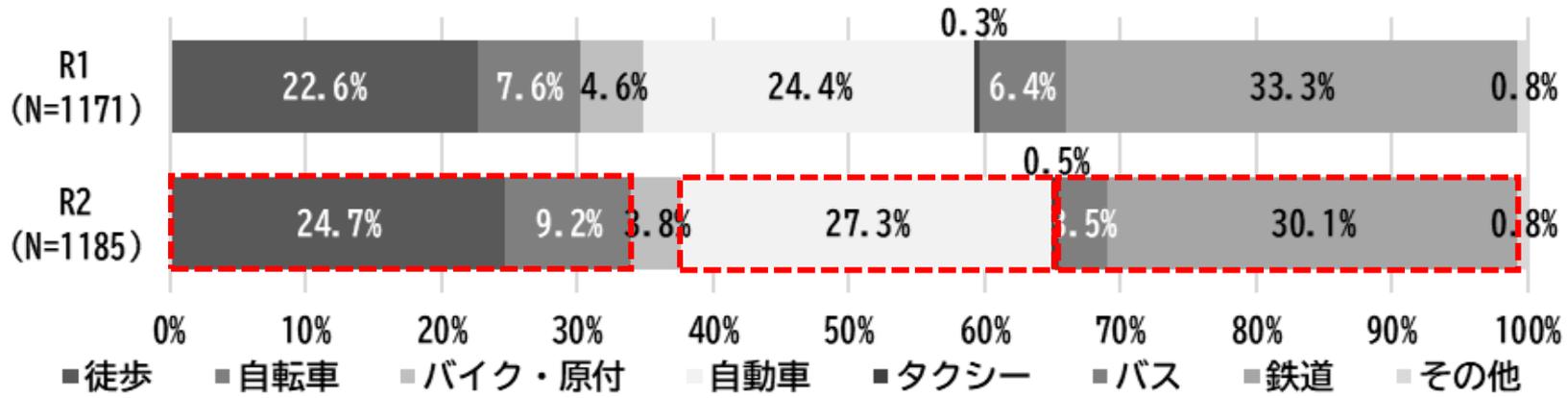


2. 単純集計結果（R1とR2の2ヵ年比較）

（3）代表交通手段

特定日の外出目的について、R1調査とR2調査を比較すると、R2調査は「自動車」(+3.2ポイント)、「徒歩」(+2.1ポイント)、「自転車」(+1.5ポイント)の割合が大きくなっており、逆に、「鉄道」(-3.2ポイント)、「バス」(-2.8ポイント)の割合が小さくなっている。

Q3-4~Q9-4_交通手段

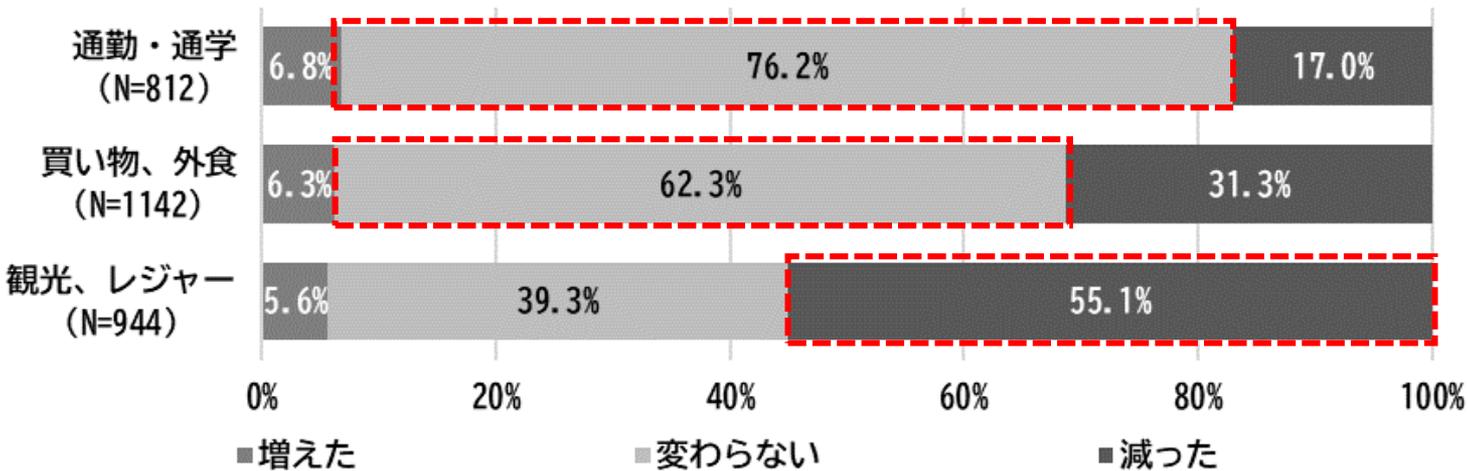


3. コロナ禍での行動変容に関する設問

(1) 外出頻度の変化

令和2年10月1日～15日の行動について、日常生活に必要な『通勤・通学』・『買い物、外食』は「変わらない」が最も多く過半数を占めているが、余暇活動の『観光、レジャー』は「減った」が約半数以上と最も多くなっている。

Q20-1_新型コロナ禍前後の外出頻度の変化
 (「この目的の外出はしていない」を除く)

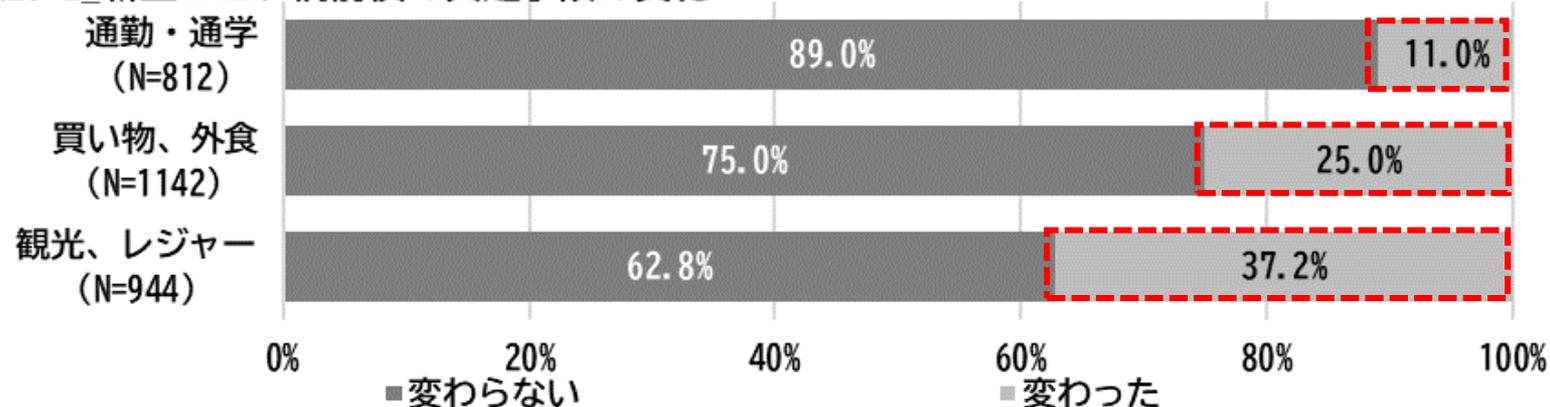


3. コロナ禍での行動変容に関する設問

(2) 交通手段の変化

令和2年10月1日～15日の行動について、いずれの目的でも交通手段は「変わらない」が過半数を占めているが、交通手段が「変わった」割合は『観光、レジャー』（37%）、『買い物、外食』（25%）、『通勤・通学』（11%）の順に多い。

Q20-2_新型コロナ禍前後の交通手段の変化



3. コロナ禍での行動変容に関する設問

(2) 交通手段の変化

「それぞれの目的ごとの交通手段は何から何に変わりましたか。（前問で、「変わった」と回答した人のみ）」の問に対し、『通勤・通学』は「公共交通機関→徒歩」が最も多く、『買い物、外食』・『観光、レジャー』は「公共交通機関→自動車」が最も多くなっている。

いずれの目的でも、新型コロナウイルスの影響により公共交通から別の交通手段に変更した人が多い。

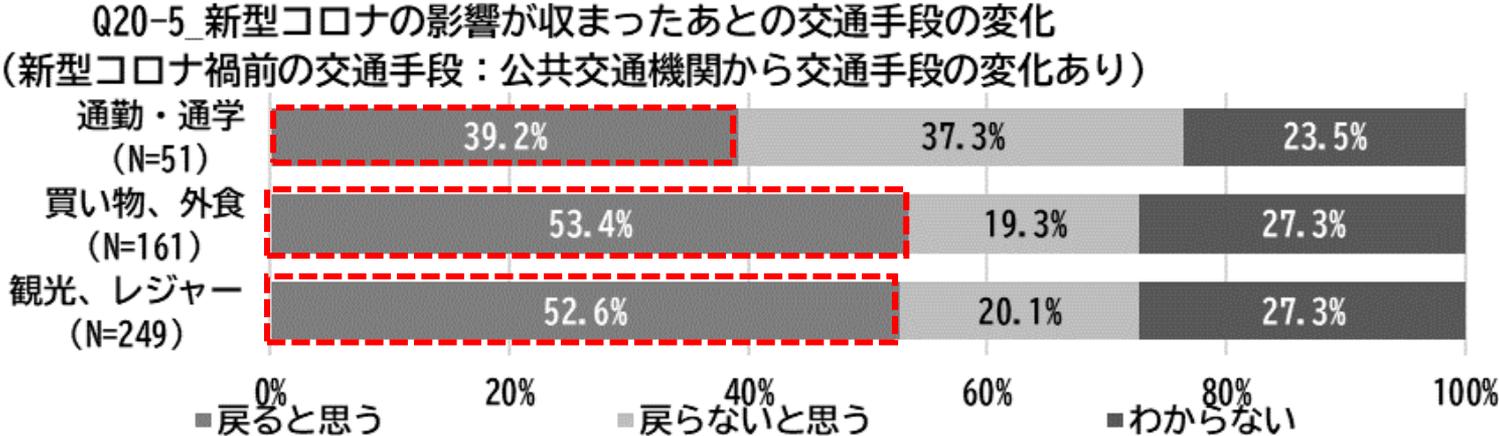
目的	1位	2位	3位
通勤・通学	公共交通→徒歩 (28.1%)	徒歩→公共交通 (22.5%)	公共交通→自動車 (20.2%)
買い物、外食	公共交通→自動車 (28.0%)	公共交通→徒歩 (23.4%)	徒歩→公共交通 (10.8%)
観光、レジャー	公共交通→自動車 (47.6%)	公共交通→徒歩 (16.5%)	徒歩→公共交通 (7.1%)

※「徒歩→公共交通」を選んだ方の傾向として、『通勤・通学』では「20～29歳」「男性」「垂水区」の方が多く、『買い物、外食』・『観光、レジャー』では「60歳以上」「女性」「北区」の方が多い。
 ※交通手段だけでなく通勤・通学先や買い物先、観光地などの目的地も変わった可能性もある。

3. コロナ禍での行動変容に関する設問

(3) アフターコロナの公共交通機関利用

「新型コロナウイルス感染拡大の影響が収まれば、それぞれの目的ごとの交通手段は元の公共交通機関に戻ると思われますか。（前問で「公共交通機関→自動車orバイク・原付or自転車or徒歩」に変わったと回答した人のみ）」の問に対し、『買い物、外食』・『観光、レジャー』は「戻ると思う」が約5割、『通勤・通学』は「戻ると思う」が約4割となっている。

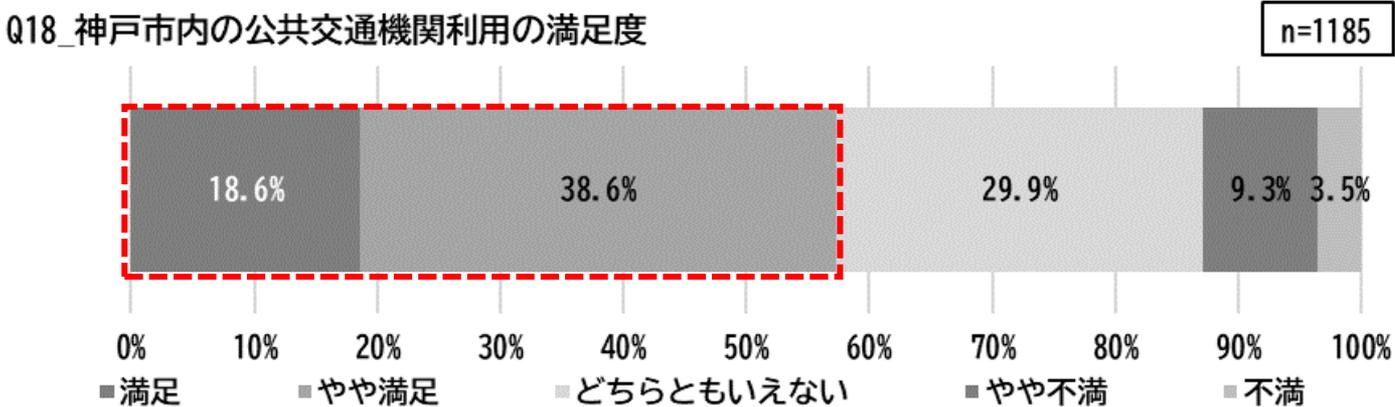


4. 市内の公共交通機関に対する満足度

(1) 単純集計

「やや満足」が458件で38.6%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が354件で29.9%、さらに「満足」が221件で18.6%と続いている。

「満足」「やや満足」の回答者割合の合計は57.3%となっている。



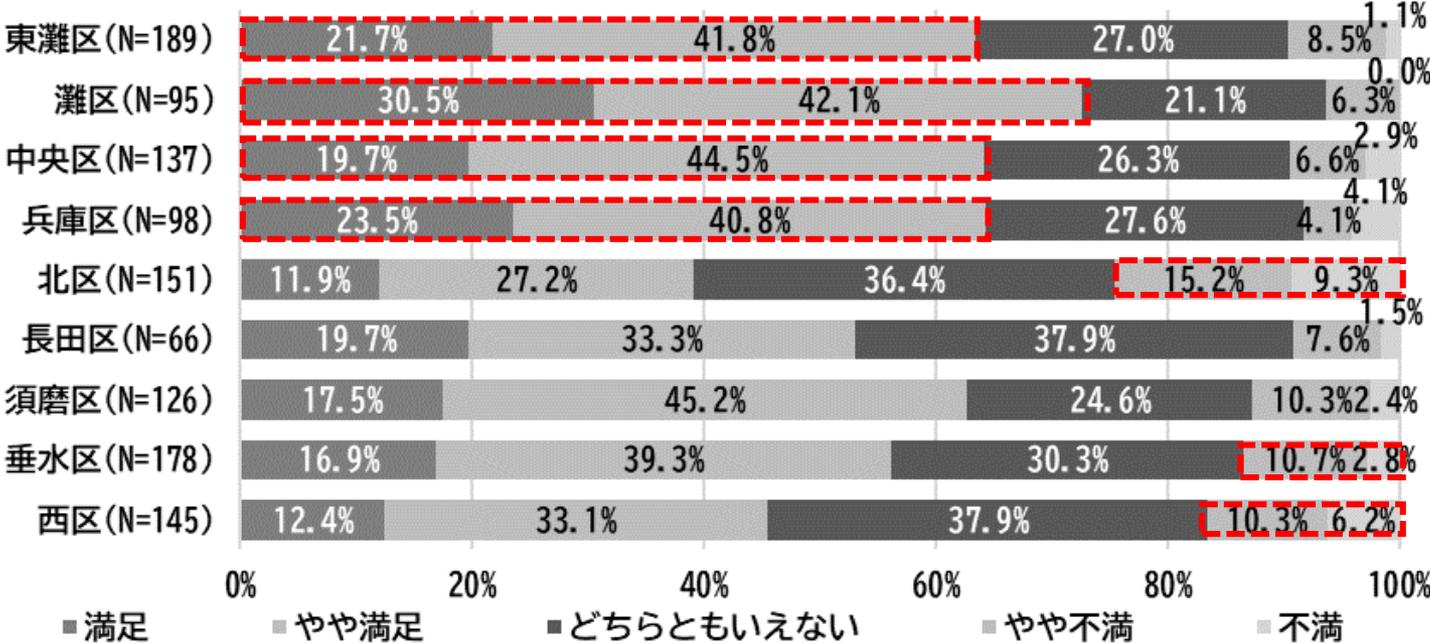
4. 市内の公共交通機関に対する満足度

(2) 居住地とのクロス集計

「満足」あるいは「やや満足」と回答した割合は『灘区』が72.6%と最も多く、次いで兵庫区、中央区、東灘区と、臨海部の区が続いている。

逆に「不満」あるいは「やや不満」と回答した割合は『北区』が24.5%と最も多く、次いで『西区』が16.6%、さらに『垂水区』が13.5%と続いている。

Q18_神戸市内の公共交通機関利用の満足度×SC2_居住地



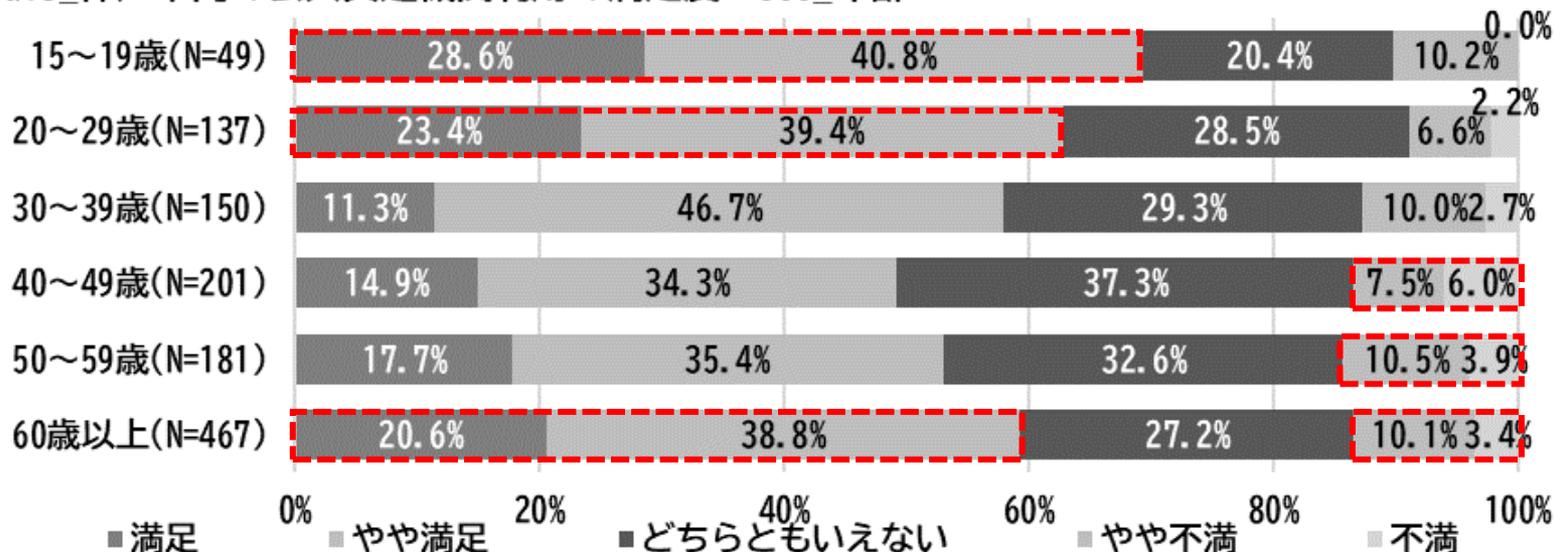
4. 市内の公共交通機関に対する満足度

(3) 年齢とのクロス集計

「満足」あるいは「やや満足」と回答した割合は『15～19歳』が69.4%と最も多く、次いで『20～29歳』が62.8%、さらに『60歳以上』が49.3%と続いている。

逆に「不満」あるいは「やや不満」と回答した割合は『50～59歳』が14.4%と最も多く、次いで『60歳以上』が13.5%、さらに『40～49歳』が13.4%と続いている。

Q18_神戸市内の公共交通機関利用の満足度×SC5_年齢



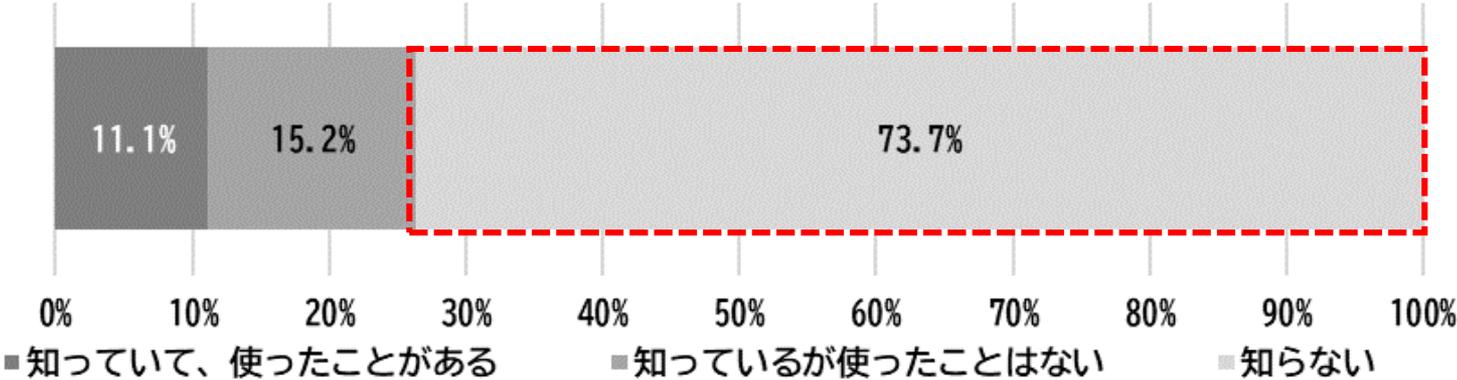
5. KOBEバスマップに関する設問

(1) 認知度

KOBEバスマップの認知度について、「知らない」が873件で73.7%と最も多く、次いで「知っているが使ったことはない」が180件で15.2%、さらに「知っている、使ったことがある」が132件で11.1%となっている。

Q18-1_KOBEバスマップの認知度

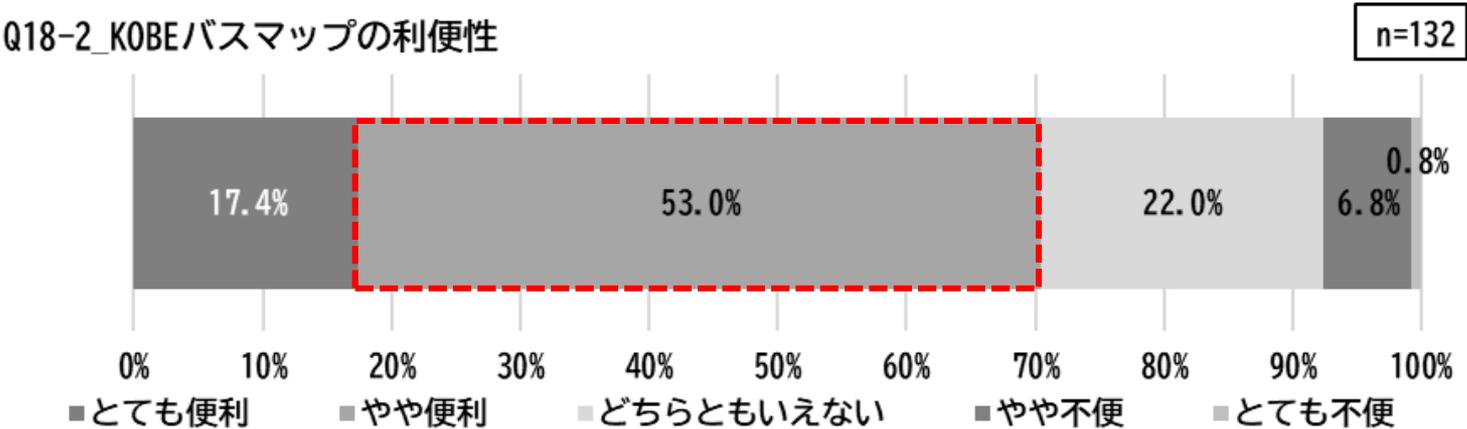
n=1185



5. KOBEバスマップに関する設問

(2) 利便性

KOBEバスマップの利便性について、前問で「知っていて、使ったことがある」と回答した人のうち、「やや便利」が70件で53.0%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が29件で22.0%、さらに「とても便利」が23件で17.4%と続いている。



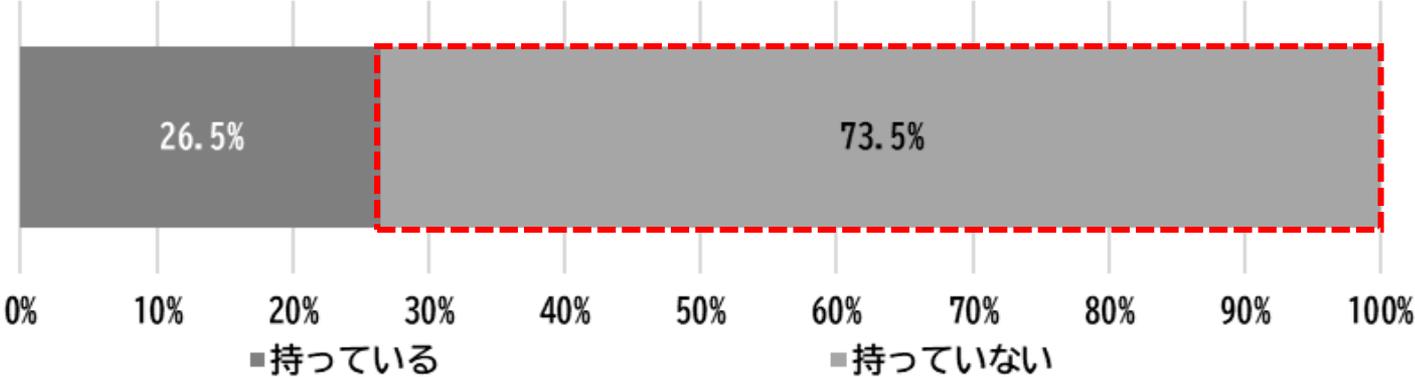
5. KOBEバスマップに関する設問

(3) 令和2年度版マップの所持

令和2年度版KOBEバスマップの所持について、「持っていない」が97件で73.5%、「持っている」が35件で26.5%となっている。

Q18-3_令和2年度KOBEバスマップの所持

n=132



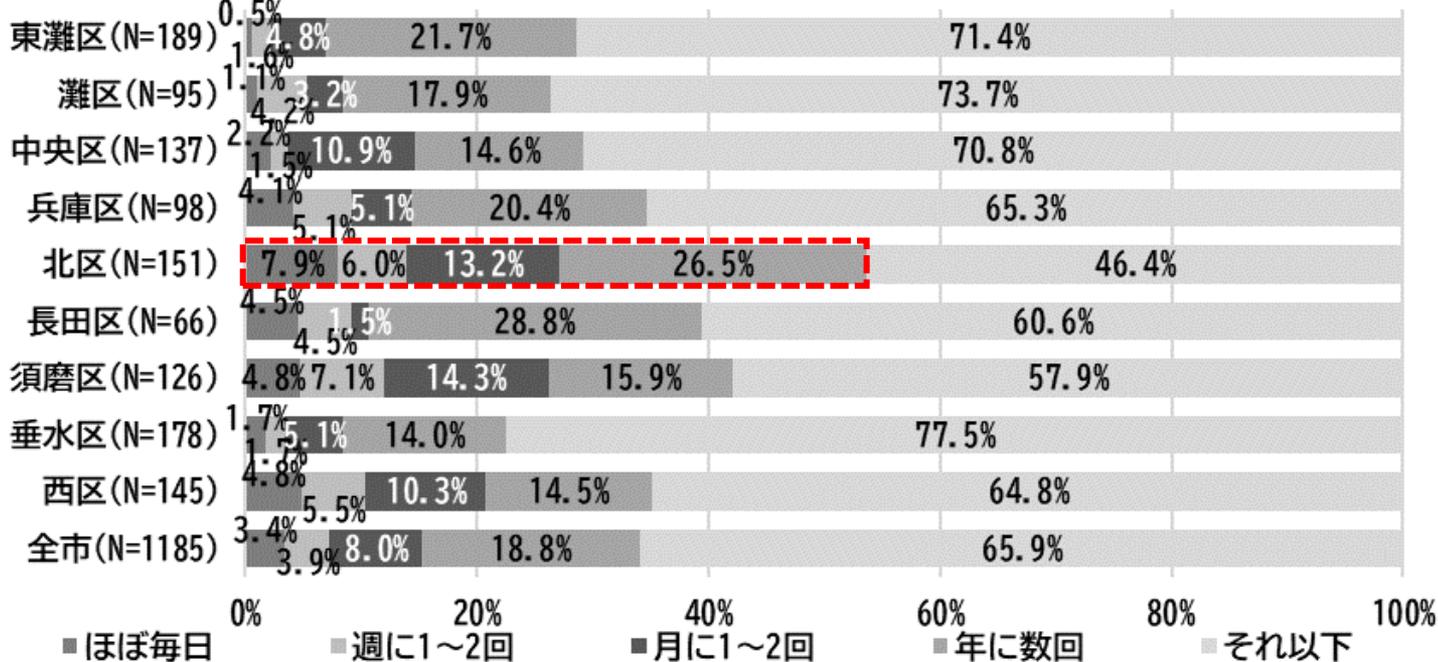
6. 市営地下鉄北神線に関する設問

(1) 現在の利用状況（居住地とのクロス集計）

「ほぼ毎日」と回答した割合は『北区』が7.9%と最も多く、次いで『須磨区』・『西区』が4.8%と続いている。

逆に「それ以下」と回答した割合は『垂水区』が77.5%と最も多く、次いで『灘区』が73.7%、さらに『東灘区』が71.4%と続いている。

Q19-1_神戸市営地下鉄北神線の利用状況×SC2_居住地



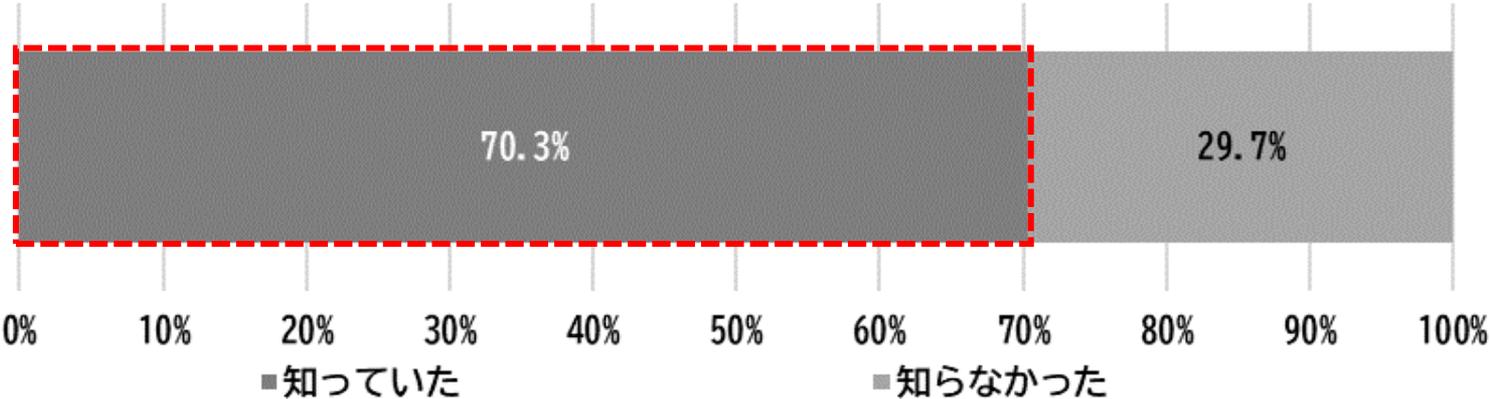
6. 市営地下鉄北神線に関する設問

(2) 市営化による運賃値下げの認知度

市営地下鉄北神線の運賃値下げの認知度について、「知っていた」が833件で70.3%、「知らなかった」が352件で29.7%となっている。

Q19-2_神戸市営地下鉄北神線の運賃値下げの認知度

n=1185



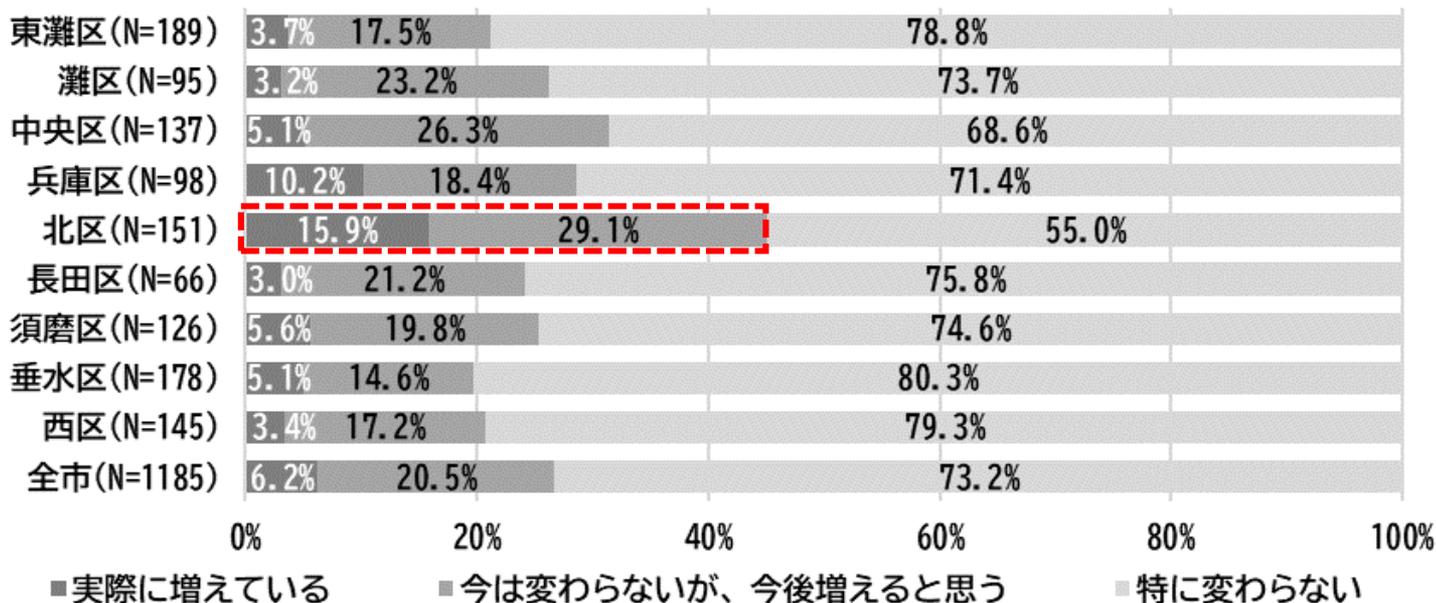
6. 市営地下鉄北神線に関する設問

(3) 運賃値下げによる利用状況の変化（居住地とのクロス集計）

「実際に増えている」と回答した割合は『北区』が15.9%と最も多く、次いで『兵庫区』が10.2%、さらに『須磨区』が5.6%と続いている。

「特に変わらない」と回答した割合は『垂水区』が80.3%と最も多く、次いで『西区』が79.3%、さらに『東灘区』が78.8%と続いている。

Q19-3_神戸市営地下鉄北神線の運賃値下げによる利用状況の変化
×SC2_居住地



6. 市営地下鉄北神線に関する設問

(3) 運賃値下げによる利用状況の変化

市営地下鉄北神線の運賃値下げによる利用状況の変化について、現在の利用状況が『それ以下（年に数回以下）』と回答した方を除くと、半数近くが「今は変わらないが、今後増えると思う」「実際に増えている」と回答している。

